

## 例会「涸沼一周ウォーク」報告

開催日：2022年10月5日(水) 集合場所：鹿島臨海鉄道大洗駅前

集合時間：8時30分～9時 開会式：9時～9時15分 終了後スタート

コース・距離：大洗駅→広浦公園→涸沼自然公園→親沢公園→網掛公園→いこいの村涸沼  
→涸沼駅→夕日の郷松川→大洗駅 涸沼駅:23km、大洗駅:31km

ゴール時間：大洗駅:15時30分

参加者：8名(会員7名)

天候：曇りのち雨

### ウォーキング状況等

涸沼は太平洋から5kmほど内陸にある関東地方最大の汽水湖。満潮時には海水がさかのぼって沼に入ることによって海水と淡水が混じり合い、多種多様な動植物が生息している。霞ヶ浦(西浦)の1/20程度なので一周ウォークも可能な距離だが、例会、大会の対象にはなりにくかった。「水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約(ラムサール条約)」の登録湿地となり、関係団体が地域の活性化、観光振興に力を入れ始めたことにより、歩行環境も少しずつ整ってきた。そこで涸沼をウォーキングで一周することにより、その魅力を実感しようと企画しました。

開会式を終え、涸沼と太平洋を繋ぐ涸沼川に向かう。橋を渡り川沿いに歩くとサイクリングロードに合流する。涸沼の景観を楽しみながら暫く歩くと水戸藩主徳川斉昭が水戸八景の一つに選んだ広浦公園に着いた。更に歩を進めて家族で自然を満喫出来る涸沼自然公園へ。ここで小休止し、一息入れる。英気を養ったのち松林に囲まれた親沢公園まで行くと、待ちに待った昼食タイムだ。コースのおよそ半分、それなりの達成感と徳川光圀の句碑があるなど古くからの涸沼の景勝地が手伝ってか皆さん話が賑やか。食後は水戸藩の影響が強く反映した涸沼北岸に比し、開発が遅れ一部未整備な箇所もある南岸を歩くので、気持ちを新たにす。

サイクリングロードと離れ涸沼川を渡ると湖岸道は途切れ、歩道のない交通量の多い一般道を進むので注意深く歩く。湖岸道に戻れても一部私有地があり迂回を余儀なくされるが、どうにか網掛公園に辿りつけた。休憩後、涸沼駅に向かって歩き始めるが、雨模様に。条約登録湿地のためか野鳥が多いのが目につくが、対岸を見渡せば自分が歩いた距離を実感出来、初めて長距離を歩く参加者なら自分を褒めたくなるに違いない。そうこうしているうちにモダンな涸沼駅に着いた。涸沼駅でリタイアする方はおらず、全員自由歩行で大洗駅を目指して再出発。スマホによるグーグルマップも活用しながら、スタッフも一緒に歩いて三々五々ゴールしました。

「日本の自然100選」に選ばれている涸沼を、一周ウォークの形で初めて実施し、霞ヶ浦とはひと味違った景観を随所でみる事が出来た。特に水戸(常陸)八景設定の大きな目的は藩内の子弟に八景巡りをすすめて、自然観賞と健脚鍛錬とを図ることにあったと言う斉昭公の言葉(案内板に記載、天保のウォークラリー、約80km)が印象に残る。可能なら本会でも取り上げたい。ラムサール条約登録湿地涸沼の会は地域活性化のために様々な取り組みを行っているが、頻繁なウォーキングの開催がその一助になればと思う。そのためにも沼全体のサイクリングロード化の実現を願いたいし、機会あれば協力もしたい。11月の例会は、もう一つの茨城県ラムサール登録湿地「渡良瀬遊水池」です。ご期待下さい。(戸田)